

40. ダイヤモンドダスト

医事万華鏡

毎日寒い日々が続いています。お正月の行事には、親戚同士の集まりや、仕事では取引先への挨拶回り等、業務が重なり忙しない日々を過ごされた方も多いように思います。一方で冬の季節、日本の豪雪地帯では雪原が窓の外に広がり、一面雪に覆われた白銀の世界では、晴天時には白の雪が空の青と対照をなし、息を呑むほど美しい光景を織りなします。また、豪雪地帯ではこの極寒の季節だからこそ出逢える、神秘的な自然現象というのもあります。ダイヤモンドダストです。

ダイヤモンドダストは、大気中の水蒸気が急速に冷やされ昇華してできた極小の氷の結晶が、太陽光を反射させながら一面に舞う現象です。「氷点下10℃以下で、風がなく、空気が澄み切っている早朝時」といった、一定の気象条件が揃った時にしか見られない特別な光景です。1、2月に発生する確率が高いと言われ、日本では主に北海道の内陸部で見ることが出来ます。早朝の陽光に照らされ輝く幻想的で美しいその姿から、別名「天使の囁き」とも呼ばれます。

そんな氷点下が生み出す幻想的な冬の芸術であるゆえ、

ダイヤモンドダストに出逢うには、厳しい冷え込みに耐えながら祈るような思いで待つ覚悟が必要です。ただ簡単ではないからこそ、待ち望んで「現実」になったときの感動もひとしおと言えるでしょう。

ところでダイヤモンドダストは単に美しいだけでなく、脳を鎮静化しストレス耐性を強化するのだそうです。それを裏付ける光トポグラフィ―検査（近赤外線を使って脳内の血流量の変化を測定するもので、主として抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用）による実験結果があつて、ダイヤモンドダストの映像を見た後では、心身をリラックスさせる副交感神経が優位になり、脳が鎮静化されるのだそうです。もちろんダイヤモンドダストに限らず、美しさに触れることで自律神経が整うことは知られています。その意味で、人が美や稀有な存在を求めるのは、生得的な本能と言えるでしょう。

極寒の限られた気象条件下でしか見られない、一面の雪景色に舞う氷の結晶・ダイヤモンドダスト。それはまさに大自然が生み出した「偶然の産物」。心を大きな感動で満たしてくれるそんな「奇跡のようなめぐり逢い」を、これからも大切にしていきたいものです。

（JMS主幹・野村元久）

